秋田県ゆとり生活創造センター「遊学舎」
令和７年度の指定管理業務の実施状況に関する評価結果

秋田県ゆとり生活創造センター「遊学舎」の指定管理者である特定非営利活動法人あきたパートナーシップでは、県民の皆様からご満足いただける施設の運営と効率的かつ効果的な施設の管理を目指し、様々な立場の方々から、指定管理業務の実施状況に対する評価や提言をいただくため、秋田県ゆとり生活創造センター運営評価委員会を設置しております。

令和８年７月２２日（水）に行われました運営評価委員会において、令和７年度の指定管理業務の実施状況に対する評価をいただきました。

≪運営評価委員≫

安宅　英男	秋田魁新報社　統合編集本部制作センター局　総務兼整理部長
藤本　恵子	ＮＰＯ法人 バニヤンツリー　代表理事
佐藤　宏悦	上北手地区振興会　会長
井上　玲子	ＮＰＯ法人 秋田ＲＧ愛好会　理事

≪指定管理者≫

畠山　順子	ＮＰＯ法人あきたパートナーシップ理事長
伊藤　惣孝	遊学舎　センター長兼総務課長
宮崎　真紀	遊学舎　市民活動支援課長
斎藤　克則	遊学舎　事業推進課長

≪オブザーバー≫

藤原　由佳	秋田県人口戦略部　地域づくり推進課 地域協働推進チーム　チームリーダー
髙橋　駿介	秋田県人口戦略部　地域づくり推進課 地域協働推進チーム　主事

1　管理業務の実施状況について

① 施設の利用状況はどうか。（５点満点）

・施設の利用件数、稼働率ともに増えているが、夜間利用者の獲得が課題である。 ・60 代以上の利用者の割合が 66.8%、高齢者にとっては利用しやすい施設であるが若い世代へのアプローチが課題である。 ・もっと利用率が上がってもいいと思われる。工夫が必要である。 ・夜間の利用者を増やす工夫が必要である。 ・遊学舎までの交通手段（バスの本数等）が少ないのが課題である。	4.5

② 適切な管理運営を行う体制が整っているか。（５点満点）

・限られた人員でよく管理運営をされている。 ・職員の職務権限と責任の範囲が明確である。 ・良好である。 ・各部署とも適切に管理されているが、利用者を対象とする避難訓練も必要と思われる。	4.925

③ 適切な施設の維持管理がなされているか。（５点満点）

・しっかり維持管理ができている。 ・利用者からの要望に対して随時対応できている。 また、施設全体の管理向上に努めている。 ・良好である。 ・適切に管理されている。	4.925

④ 収支状況、財務状況は安全かつ健全か。（５点満点）

・適切に処理されているが、財務チェック機能に問題が残る。 ・適切かつ健全な会計処理が行われている。 ・概ね良好である。 ・７年度の正味財産の減少が大きく、今後の財務状況が心配である。 また、事業収益を上げる必要性を感じる。	4.75

2　企画運営について

① 施設の設置目的に沿った運営がなされているか。（５点満点）

・施設の特色を生かした運営ができている。 ・県民全体（個人・ＮＰＯ等）の利便性を考慮した開かれた運営が行われている。 ・主たる目的を忘れないように。 ・フリースペースは常に利用者がいるようで良好である。	4.95

② 事業の実績状況はどうか。（５点満点）

・企画事業は充実しているが、参加者数や開催日時に課題がある。 ・企画事業の内容が多様性に富んでいる。 夜の利用者数を増やす工夫が課題である。 ・良好である。 ・事業収益を増やす必要がある。 使用料が増えたら県からの補助も増えるのか。 会計監査の報告も記載してはどうか。	4.45

③ 利用者に対するサービス向上の取組がなされているか。（５点満点）

・利用者の声をサービス向上に生かしている。 ・職員の積極的なあいさつと対応が好印象を与え、施設の利用促進に寄与している。 ・良好である。 ・インスタグラムなどのＳＮＳを積極的に活用して、利用者に広くアピールできれば良いと思う。	4.875

④ 利用者の意見を反映した運営がなされているか。（５点満点）

・開館時間の変更と使用料の改定は評価できる。 ・随時、アンケート調査を行い、その回答と結果を公表するとともに、可能な限りの対応をしている。 ・良好である。 ・ホームページやインスタグラムなどで、利用者の声を公表していただければ良い。	4.7

（評価される点）

・運営評価委員会で話し合われたことが生かされている。
・職員が企画・開催する「遊・学講座」は、夜間開催による集客面の課題はあるものの、多様なプログラムが確保されている。また、市民活動参加促進事業の「市民活動カフェ」は、ＮＰＯと大学をつなぐ、地域ネットワークの活用や人材育成に寄与する事業展開が高く評価できる。
・各担当部署で職員が積極的に運営されている。
全職員が親切、丁寧で素晴らしい対応ができている。

（改善が望まれる点）

・緊急時の連絡体制は、電話だけでは不十分に感じる。他の手段も一緒に用意する必要がある。
・無料駐車場の利便性を前面に打ち出して、20 代から 50 代の利用者を増やす対策を検討してはどうか。
・県の事業であれば、全県へのＮＰＯに関する出前講座の開催も良いと思う。
・緊急時の対応で利用者も参加できる避難訓練があっても良いと思う。
学校の課外活動の場としての利用も検討できれば良いと思う。

（総合所見）

・夜間の利用者拡大や危機管理（クマ対策、緊急時の連絡体制）に課題はあるものの、利用者の声を生かし、適切に管理運営されている。今後も様々な世代やグループが交流できる機会を設けてほしい。
・無料駐車場や手頃な使用料金、充実した設備、職員の好対応など、遊学舎の持つ利便性は非常に高い。この利点を次世代層を含む多くの人に周知していくことが望まれる。また、重要な指定避難所を担うなど、地域での役割も増しており、今後も強固な団結力をもって活躍されることを期待する。
・全体的に管理は行き届いているように思う。
・利用者を増やすための広報活動の必要性を検討課題としてほしい。
・遊学舎までの交通手段の検討が必要と思われる。